

Q . 小中で一貫した教育をおこなうためには、小学校区・中学校区が一致しない学区の問題が大きいのではないかと？

A . 早急に検討をすすめている。

Q . 中学の先生が英語を月1回小学校に教えに行くというが、同じ中学の他学年を教えるケースでも、子どもの状況、重点をどこにおくかなど、とても細かな打ち合わせが必要になる。打ち合わせの時間はどう確保するのか？

また、中学校の授業の穴埋めに来る講師との打ち合わせも必要になるが、どうするのか？実際には、「プリントを用意しておくから自習させておいてください」となるのではないかと。中学校の教科教育のレベルは落ちてしまうと思う。

A . 教員を1人入れるぐらいの予算が必要ではないかと考えている。今後、質が落ちないように検討していきたい。

Q . 不登校の問題について、5, 6年生でケアをすればスムーズに中学にあがれるというのは、頭だけで考えている構想では。その子の心に教員がどれだけ向き合ってくれるかが鍵なのではないか。時々中学から来る先生が見てくれたから、「中学校は楽しそうだ」とはならないのでは？

A . 不登校の問題を見てみると、学力の問題が非常に大きい。友人関係の問題もあると分析してしている。

Q . 一貫校は中1ギャップの問題に対応するためだというのが、中学校では、小学校の伸び伸びとした教育から、急に受験をめざして締め付けが厳しくなるのが実態ではないか。一貫にしたことで、5, 6年生の伸び伸びした教育を逆につぶすようなことになりはしないか。中学での締め付けを見直して行くことの方が重要ではないのか？

A . 中学校にいかにスムーズに近づけて行くかが大事。小学生に、中学校の先生の雰囲気を感じてもらうことも大事だ。

小中一貫教育実施にむけて示されているスケジュール案 (9月29日検討委員会に提案された内容を含む)

- ・ 9月30日：小中一貫校検討委員会が最終報告提出
- ・ 10月20日：教育委員会が基本計画「素案」をだす
- ・ 11月1日～30日：パブリックコメント実施
- ・ 11月中に武蔵野小、三中の教員・保護者・地域住民へ基本計画「素案」の説明会開催
- ・ 12月中に一中、二中学区の教員・保護者・地域住民へ基本計画「素案」の説明会開催
- ・ 12月1日～15日：パブリックコメント集計と「基本計画」作成
- ・ 12月15日：教育委員会定例会で実施決定
- ・ その後、各学区ごとの「実施計画」を作成していく

足立区からの報告

- - 様々な混乱がおきている教育現場

足立区では3年前から小中一貫校が開校されています。現場からどういう声が上がられているか様々な事例が報告されました。その一部をご紹介します。

5, 6年生の活躍の場がない。

5, 6年生は教科担任制にしているが、そのためにクラス作りが難しくなった。

9年間でいじめのピラミッドが固定化する。そのため7年生でも不登校が増えている。

部活動に小学生も参加するが、中学生が相手をしなければならず、不満がたまる。

教員同士の連絡調整に時間がかかる、会議が増えるなどにより、生徒指導の時間がとれない。

教員の異動が激しくなった。

保護者・教員・市民の合意ぬきの実施決定に反対

日本共産党羽村市議団

今回の集会ででの質疑を聞いても、小中一貫教育についての様々な疑問に対して、教育委員会からは説得力ある説明はなされませんでした。

逆に、足立区からの報告にあるように、すでに実施している学校では様々な問題が現れていることも明らかになりました。

教育委員会は、パブリックコメントの実施と、関係者にそれぞれ1回づつ説明会をおこない、12月15日の教育委員会定例会で実施決定をおこなうスケジュールを示しています。

しかし、これでは不十分です。私たちは、説明会は一度だけでなく、意見聴取を反映した修正案についてさらに説明会と意見聴取をおこなうこと、保護者・教職員アンケートを実施して圧倒的多数の合意を前提に実施を決定すること、を求めています。

11月～12月に実施が予定されているされるパブリックコメント、説明会で、どんな小さな疑問についても質問し、納得いくまで説明を求めましょう！よりよい羽村市の教育をつくるためにも！

無料法律相談のお知らせ

10月13日(火)午前10時からです。事前に予約が必要です。お気軽にご連絡ください。

- ・ 中原まさゆき 554 - 1163
- ・ 市川英子 554 - 1140
- ・ 鈴木たくや 080 - 1058 - 9450